

農作物技術情報 第1号 畑作物

発行日 2019年 3月 14日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 中央農業改良普及センター 県域普及グループ (電話 0197-68-4436)

携帯電話用 QR コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://i-agri.net/Index/gate002>」

◆ 小麦

- 雪が少なく暖かいため、小麦の生育量は大きくなっています。
- 白鳥による食害を受けた圃場は、草丈が非常に短く、雑草が発生しやすい環境となっています。追肥作業とともに、雑草の生育に合わせて早めに除草剤の散布を行いましょう。
- 麦踏みは茎立ち前までに、圃場が乾いていることを確認して行いましょう。

小麦

1 生育状況

雪が少なく、気温が高い状態が続き、ほとんどの圃場では、2月中から雪がない状態になっています。また、昨年秋の播種作業も適期に行われていることから、生育は順調で、小麦の生育量は十分に確保されています。しかし、一部の圃場では、葉の先端部分が黄化し、枯死しているものや、白鳥の食害により草丈が非常に短くなり、追肥の判断が難しくなっているところもあります。

一方、排水対策が十分ではない圃場では、雨や雪解け水が溜まり、ぬかるんでいる圃場があります。雪腐病の被害や湿害が心配されます。圃場内の明渠や排水溝を補修し、圃場内の滞水が速やかに排水できるように努めましょう。

融雪期追肥は茎立ち前までに行い、除草剤の散布は適期を逃さず早めに行いましょう。

2 排水対策

排水溝の崩れがないか、途中にゴミが詰まっていないか点検し、確実に排水できるよう補修しましょう。

例年、隣接する水田からの流入水等の影響で、生育の悪い圃場が散見されます。畦畔を補修するとともに、茎立ち前を目安に、必要に応じて圃場内排水溝を設置しましょう。



写真1 水口付近の滞水が目立つ圃場

3 麦踏み

生育が旺盛な場合は、鎮圧ローラーやタイヤなどを用いて麦踏みを行いましょう。生育を揃え、耐倒伏性を高める効果もあります。麦踏みは、消雪後から茎立ち前にかけて、圃場が乾いているときに実施します。ただし、麦の生育が劣る場合や土壌水分が高い場合は避けましょう。

茎立ち期：茎が起立し始める時期。ほぼ、節間伸長の始期にあたる。主稈長が2cmになった時期。
(調査基準より)

4 融雪期追肥

融雪期追肥は、生育量を確認し、下記の表を参考に茎立ち前までに行いましょう。縞萎縮病や白鳥による食害を受けた場合にも、融雪期追肥が有効です。

表1 生育量に基づく融雪期追肥の目安(ナンブコムギ・ゆきちから、追肥量は窒素成分)

品種名	診断内容	融雪期追肥の対応
ナンブコムギ	越冬後茎数 120 株/m ² (茎数 1000 本/m ² 以上)	追肥しない
	越冬後茎数 75~120 株/m ² (茎数 400~1000 本/m ² 程度)	2kg/10a 追肥
ゆきちから	茎数 1900 本/m ² 以上	追肥しない
	茎数 1400~1900 本/m ²	2kg/10a 追肥
	茎数 1400 本/m ² 未満	4kg/10a 追肥
	※水田転換畑 1~2 年目で堆肥を 施用しない場合	4~6kg/10a 追肥

表2 融雪期追肥の目安(銀河のちから、追肥量は窒素成分)

収量水準 (kg/10a)		越冬後茎数 (本/m ²)		
坪刈	全刈 (目安)	300 以下	300-600	600 以上
400	280~320	4kg/10a 追肥	2kg/10a 追肥	2kg/10a 追肥
500	350~400	4kg/10a 追肥	4kg/10a 追肥	2kg/10a 追肥
600	420~480	6kg/10a 追肥	6kg/10a 追肥	4kg/10a 追肥

注) 全刈収量は坪刈収量の7~8割として推定

5 除草

圃場をよく観察し、雑草が生えそろうて小さいうちに早めに茎葉処理除草剤を散布しましょう。

特に連作圃場では、雑草害が大きくなります。雑草の種類、発生状況をあらかじめ把握しておくこと、効率良く防除することができます。

また、白鳥の食害のため、小麦の茎葉が極端に短くなっている場合も、雑草害が増加することが考えられます。



写真2 白鳥に食害され、短くなった部分

6 ムギ類萎縮病、コムギ縞萎縮病について

どちらの病気も土壌伝染性のウイルスが原因です。名前のお通り株が萎縮し、黄緑色のかすり状の斑点・モザイク症状を示します。特にナンブコムギでは多発圃場が年々増加しており、今年も被害が大きくなることが予想されます。萎縮病の症状が見られた場合は、追肥で被害を軽減しましょう。



写真3 コムギ縞萎縮病の被害（黄化、萎縮）



写真4 コムギ縞萎縮病の被害（不鮮明なモザイク症状）

次号は4月25日（木）発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。発行時点での最新情報に基づいて作成しております。発行日を確認のうえ、必ず最新情報をご利用下さい。

中央農業改良普及センター・地域普及グループは、地域農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。